

ムーディーズがインドネシアを格上げ、Baa2に 信用力向上による債券市場への資金流入を期待

情報提供資料 2018年4月13日

4月13日、米国の大手格付け機関ムーディーズ・インベスターズ・サービス（以下「ムーディーズ」）はインドネシアの長期債務格付け（自国通貨建て、外国通貨建て）をBaa3からBaa2に一段階引き上げました。インドネシアのファンダメンタルズは大きく改善し、国債市場は安定的に推移しています。

経済ファンダメンタルズの改善を評価

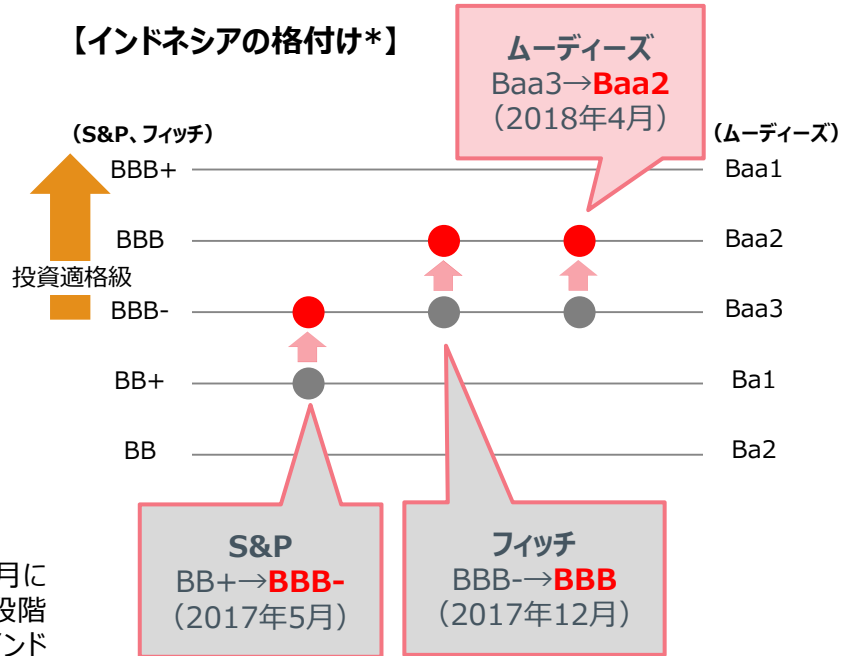
- 4月13日、ムーディーズはインドネシアの長期債務格付けをBaa3からBaa2に一段階引き上げ、見通しを安定的としました。ムーディーズは格上げの理由として、マクロ経済の安定に向けた政府の信頼性の高い効果的な財政、及び金融政策の取り組みを評価しているほか、国債などの金融市場が外的なリスクに対して耐性が向上していることを挙げています。財政面では2003年から3%の財政赤字上限（対国内総生産（GDP）比率）を厳格に順守していることを評価しています。政府の慎重な財政運営により、インドネシアの政府債務が今後数年間に対GDP比30%前後で、経常赤字については対GDP比1.8%前後で安定的に推移するとみられています。
- インドネシア中央銀行（BI）は今回のムーディーズの格上げについて、我々の慎重な財政政策と金融政策が評価されたものとコメントしています。

魅力が高まるインドネシア債券

- インドネシア国債は、米国の保護主義的な政策などを巡るリスク回避姿勢の高まりから3月下旬にかけて下落しましたが、4月に入り、インフレ率が引き続き低位で安定していることや、好調な国債入札などを背景に価格が上昇（利回りは低下）しています。
- 堅調なファンダメンタルズなどを背景に通貨インドネシアルピアも安定的に推移しており、今回の格上げにより、投資適格級でありながら高利回りのインドネシア国債の魅力はさらに高まったと考えられます。

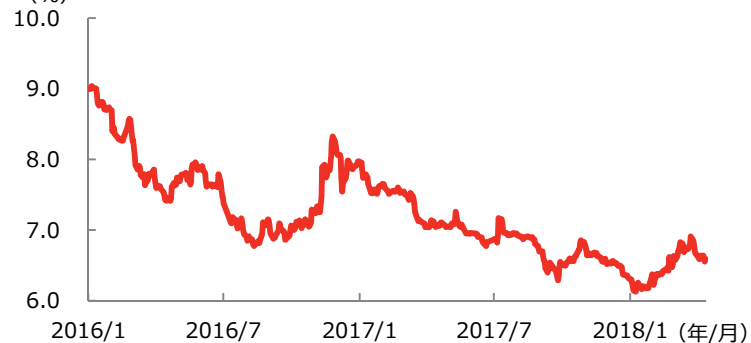
国際的なインデックス採用による資金流入を期待

- 2017年5月にS&Pは投資適格級（BBB-）に、12月にはフィッチ・レーティングス（以下「フィッチ」）がさらに一段階上の「BBB」に格上げしています。S&Pの格上げによりインドネシア国債は、2017年7月から「JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド IG15%キャップ指数」の構成銘柄として採用されました。また、2018年6月からは、グローバル債券の代表的な指数である「ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合インデックス」への採用が決定しており、同指数をベンチマークとしている機関投資家等から、インドネシア国債への資金流入が加速する可能性があります。
- また、インドネシアでは公的年金や国民保険の資産が増加していることから、結果としてインドネシア国債や株式の国内機関投資家の保有率が高まっています。さらにインドネシア金融サービス庁（OJK）は、2016年より国内機関投資家に対する国債の最低保有規制を導入しています。国内機関投資家の保有率が高まり、相対的に外国人保有比率が低下することは、市場の安定に大きく寄与するものと考えられます。



出所：Bloomberg L.P. のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
*自国通貨建て長期債務格付け。

インドネシア10年国債利回りの推移 (2016年1月1日～2018年4月12日)



英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。